

会

派

の

意

見



文責は各会派にあります

平成自由クラブ

令和三年度一般会計予算をはじめ、全ての議案を賛成いたしました。

予算配分は、新型コロナウイルス感染症対策、新庁舎建設、済生会京都府病院の移転支援が中心であり、市民の皆様の安心・安全・安定を念頭に審議を深めました。

その他の予算の特徴といたしまして、コロナ禍において、様々な生活様式が変化をする中、学校教育では、タブレット端末一人一台の運用、感染症対策の学校施設改修、子育て支

援では、子供を生み育てることへの支援など、新たな生活への転換を促し、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた予算が計上されました。

また、新たな予算として長岡京市の魅力でもある都市と田園の調和のとれた環境の保全・農家支援策も兼ねた水稻栽培における支援の予算が計上されました。

私たちはこれからも、市民が安心して生活が送れるよう、皆様のお声をお聞きし、新たな時代に対応した事業推進と政策実現に全力で取り組んでまいります。

八木 浩・富岡浩史・小野洋史

日本共産党

コロナ禍に下水道2割値上げ!?

令和3年度予算ではこれまで求めてきた保育士確保の宿舍借り上げや障がい者外出支援のタクシードライバーの増額等前進したものもあります。10月からの下水道使用料の値上げ中止の声に市は応じませんでした。

共産党は、感染最前線で働くケア労働者への慰労金や、変異株による感染再拡大を抑止するための高齢者施設等への定期的なPCR検査を求めましたが、市は「考えていない」

「府がやること」とケア労働者への感謝も、真剣に命を守ろうとする姿勢もないものでした。

共産党は、コロナ禍の事業者の実態と実情に合った対策を求めましたが、予算は490万円の増だけです。運営が厳しい障がい者福祉施設への補助金削減の停止を求めましたが、市は補助金を半減させ、生活保護申請をためらわせる「扶養照会」廃止の求めにも応じませんでした。

減便方針を打ち出した阪急バスについて、市として路線や本数を守る姿勢を明確にし、市民の足確保の責任を果たすべきと求めました。

輝(かがやき)

会派『輝』は、3月議会において、市民生活の安心・安全を最優先に位置付け、引き続き素早く柔軟な新型コロナウイルス対策を本市に強く求めました。そして、令和3年度の予算について、新型コロナウイルス対策で浮き足立つのではなく、現実的に地に足がついた予算編成だと評価し、多数の意見と要望を申し述べて「賛成」を致しました。

また、令和3年度は第4次総合計画第2期基本計画・前期実施計画の

初年度となります。第1期基本計画で出た課題点を再確認し、改善した取り組みを進めていかなければなりません。会派『輝』においても、議会の機能として最も重要である監視機能をしっかりと発揮し、行政と力を合わせて、より良い長岡京市の実現を目指して取り組みます。

新型コロナウイルスとの闘いが長期化しており、皆様には我慢を強いっている状況が続いております。会派『輝』として、市民への素早い情報提供や情報共有を行い、行政と力を合わせて、この困難な局面に全力で取り組んで参ります！

平成市民クラブ

令和3年度予算は、市民生活の安全安心を最優先に、新型コロナウイルス感染症対策、新庁舎の整備、済生会京都府病院の移転支援などに重点配分され、総額三百十二億円規模で可決しました。子育て支援では、子育て応援教室や子ども見守り宅食支援、学校教育では、タブレット端末一人一台の運用、また「脱炭素」社会への転換など持続可能なまちづくりを進める予算が計上されました。

長岡京駅前線整備に関して、事業の進捗状況や都市計画の変更について質し、天神通り踏切まで約百メートル部分に歩道がなく、用地協議を進めていることや容積率の見直しを行うなどの答弁を得ました。

地球温暖化と農業振興に関して質し、農業用ため池整備方針、地元負担軽減、水稲栽培の病害虫防除支援、都市と農業の共生のためのプランを策定するとの答弁を得ました。

第4次総合計画の第2期基本計画の5年間でスタートします。市民の豊かな暮らしのため、未来に向けたまちづくりを進めます。

三木常照・中小路貴司

平成西山クラブ

令和3年度からは、第4次総合計画の第2期基本計画がスタートします。予算の最優先は、「新型コロナウイルス感染症対策」であることは当然の判断であります。また一方で、災害への備えや防災拠点ともなる新庁舎の整備といった安全・安心の確保や、「保健・医療」の分野における済生会京都府病院の移転支援、共生型福祉施設構想の推進といった、暮らしの基盤の下支えにも十分配慮された予算編成であることを評価し

ます。また、学校教育においては、GIGAスクール構想による一人一台のタブレット端末の本格運用や、学校施設の改修や空調整備など、ソフトとハード両面から学習支援を図っていくこと、コロナ禍においてデジタル化が加速する中、本市の児童・生徒の「生きる力、しなやかな人づくり」に取組んでいただくよう望むものであります。多様化・複雑化する行政需要に対して、各施策の推進はもちろんのこと、ワクチン接種等、新型コロナウイルス感染症対策への円滑な対応をお願いしました。

上村真造 白石多津子 田村直義

公明党

3月定例会では、令和3年度予算の審議を行い、総額312億6千万円の予算を可決いたしました。

本予算は、災害が発生すれば対策本部を設置する重要な施設であると訴え続けてきた新庁舎の建て替え、コロナ禍となり医療機関の重要性が改めて認識された公的病院となる済生会京都府病院移転支援など、市民の安全・安心の暮らしを守る施策、さらには、がん検診や予防接種の充実、子宮頸がんワクチンの新中学3

年生と新高校1年生へ個別通知の実施、保育人材確保の保育士宿舍借り上げ支援、病児・病後児保育運営助成、子育て支援医療費助成、学校ICT環境整備や小中学校施設安全対策など、市民生活を支える予算であります。

コロナ禍の社会で、ダンボール等の資源ごみが家庭内で増える状況を訴え、新たな資源回収システム構築の検討を要望致しました。

公明党は、新型コロナウイルスワクチン接種やコロナ対策に関する正確な情報発信に努め、小さな声を大切に、働いて参ります。

会派とは同じ意見や考えを持つ議員が集まってつくるグループのことです。

ここでは3月定例会で審議された内容について、各会派の意見を紹介します。

